

小学校だより



No.13 2012年 2月 3日(金)

湘南学園小学校
校長 齊木 修

時代と共に

昨年11月にオープンした湘南テラスモールを歩いてみて、様々な刺激を受けました。一番印象に残ったのは次のことです。

全体のコンセプトなのでしょう。各店が魅力ある商品を絞り込み、その選択のセンスを前面に出すことによってアピールしている点です。「どんな商品も置いている」百貨店の逆をいっているわけです。

ここには大不況下の中で厳しい経営環境にある私立小学校にとっても、大切なヒントが含まれていると思うのです。

湘南学園小学校の良さを伝えようとする時、大切なことは「これもあります。こんなこともしています。」ではなく、「これが湘南学園小学校の、他校にはない独自性です。」という点を具体的に、かつ強くアピールすることです。時代の変化に対応し、その先を見据えた学校づくりを進めることが、同時に学校の伝統を生かすことにつながります。

この間の教育実践の中での、先進的な取り組みを二つあげてみます。

一つは5年生の実施した新たな行事である「雪の学校」です。

本校の伝統である「豊かな体験活動」を「教科」学習とむすびつけた「総合学習」として取組まれました。豪雪地帯での雪国の暮らしをじかに体験する、という民泊も含んだ三泊四日の取り組みは、様々な条件に規制されている現在の公立学校ではやりたくてもやれないスケールを持った学びです。(小学校HPをご覧ください。写真に見られる子ども達の表情がこの教育実践の真価を雄弁に伝えてくれます。)

もう一つはエコスクールの取り組みです。

この2年間本校ではデンマークに本部があるFEEの「エコスクール認証」を受けることを目指して地道な活動を続けてきました。2月1日(水)にはアリーナで全校集会が開かれ、各学年、エコスクール委員会、児童会から、執行委員会、エコ活動の取り組みが発表されました。

今月17日FEEから審査員が来校し、いよいよ最終的な審査が行われます。この審査に合格すると「グリーンフラッグ」を取得することが出来ます。まだ日本で数校しか取得されていないことを考えると、まさに先駆的な取り組みと言えます。

振り返ってみると、湘南学園小学校は戦後初期の段階からすでに総合学習と言っても良い戦後社会科の優れた実践が行われてきました。また現在も続く文集「松ぼっくり」には戦前、戦後を通じて日本独自の教育方法論である「生活綴り方教育」の伝統が脈々と引き継がれています。こうした先駆的な教育実践が本校の伝統の中にあるわけです。

まさに教育も世界的な危機の中にあるわけですが、その打開の方向性は、伝統に甘んずることなく、歴史を切り開く教育実践の中にあります。

新しい行事「5年雪の学校」



湘南の子ども達が松之山で豪雪体験
○十日町地域に大雪警報が出た26日、神奈川県藤沢市の湘南学園小学校5年生108人が市内松之山のキヨロ周辺でスノーシュー体験をした。当日の積雪は約92センチ、一晩で約60センチも降った。ほとんどが雪初体験の子ども達は、降り続ける雪の中を胸まで沈み、歓声を上げていた。写真。○これは「越後田舎体験」の冬の受け入れ第1号。同校は昨年まで軽井沢のスキーだったのが、入道で本物を「と24、27日の日程で訪れ、あは作りなどにも挑戦した。地元から「大雪」に来て、雪んぼ(は)ッキ。ここでしかできない体験をして」と大歓迎を受けた。

1月28日付十日町タイムスでも紹介されました。



民泊させていただいた先で、かまくらを作りました。



わらじも立派に仕上がりました。

制作展

会場： 新校舎オープンスペース

2年生は1年生教室前に、3年生は4年生教室前と音楽室前に展示します。

日時： 2月 17日(金) 開場 9:00~16:00
18日(土) 開場 9:00~12:00

【展示内容】

- ◇ 各学年の図工の絵画・造形作品
 - ◇ 5・6年生の家庭科の制作作品
 - ◇ クラブの作品
 - ◇ その他、学年の取り組みなどでつくった作品など
- ※ご来場の際には、後日配布予定のプログラムをお持ちください。

児童造形展

制作展が始まる前の、2月7日(火)~12日(日)には、「神奈川県私立小学校児童造形展」が神奈川県民ホールのギャラリーでおこなわれます。各学年の代表作品が出品されます。ご都合がつく方は、是非ご覧ください。